

✳ ふるさと寄附金の強化

ポータルサイトの増設

令和4年11月末現在

8サイトまで増設



返礼品の強化 事業者への訪問による「待ち」から「攻め」の活動

(返礼品登録推進活動)

- ・既存事業者への働きかけ + 新規事業者の開拓
⇒ 訪問活動員の登用などにより訪問活動を強化
- ・市内連携による推進体制の整備
⇒ 全職員から返礼品アイデアを募集、市内協力推進チームの設立

ふるさと寄附金のさらなる獲得のため、ふるさと納税を簡単にインターネットで行うことができるポータルサイトを2サイトから8サイトにまで増やすとともに、新たな返礼品の開拓のため、事業者への訪問活動のほか、職員からの返礼品アイデアの募集や返礼品強化推進チームの立ち上げなどに取り組みました。

また、令和3年度には、地域猫活動への支援をテーマとしてクラウドファンディング型ふるさと納税も実施し、目標額を上回る結果となりました。

さらには、返礼品の写真について、見せ方を工夫するなど返礼品のPR強化にも取り組みました。

その結果、本市のふるさと寄附金受入額が、令和元年度が約4,594万2千円、令和2年度が約5,355万5千円、令和3年度が約6,827万8千円と徐々に増加してきております。今後も市にとって貴重な財源である、ふるさと寄附金のさらなる獲得に向けて様々な取り組みを進めてまいります。

公民連携の推進

富田林市公民連携デスク開設の背景

公民連携がわかりにくい!	縦割り組織が面倒くさい!	提案の実現にはかなりの時間を要する!
・企業や団体にとっては、連携したい内容を所管する関係部局がわかりにくく、迅速で柔軟な連携構築へのバリアが高くなっていました	・提案内容ごとに担当部局かが異なるため、たらい回しが当たり前でした。	・公民連携に関するノウハウや情報の蓄積が少ないため、企業や団体からの相談や提案に対する富田林市の意思決定に、時間を要していました。

企業提案の機会を喪失

公民連携に関する企業や団体からの相談や提案を一元的に受け付けるワンストップ窓口として、

令和元年10月 都市魅力課内に**富田林市公民連携デスク**を開設!

「対話」と「相互理解」を基本に、事業担当部局へのマッチングや実現に向けた調整を行うとともに、市役所庁内での公民連携に関する情報共有や一元化を進め、ノウハウを蓄積。

近年の市民ニーズや地域課題は、複雑化・多様化しており、加えて、厳しい財政運営を強いられる中で、これら諸課題について民間の強みを活用して解決を図るため、本市では公民連携の取組みを推進しております。令和元年10月には、公民連携に関する企業や団体からの相談や提案を一元的に受け入れるワンストップ窓口として、「富田林市公民連携デスク」を開設しました。

公民連携の推進

富田林市公民連携デスク開設の基本姿勢・役割

ワンストップ窓口
設置による迅速
で柔軟な連携

企業や団体との
対話の機会の創出

相互理解を基本に
アイデアの実現化へ

企業や団体からの相談・提案

対話と相互理解 ↓ 合意形成

富田林市公民連携デスク

課題の抽出 ↑ 情報共有・調整

事業担当部局

包括連携
協定
15件

個別事業
連携協定
8件

協定を伴わない
協働
1件

連携協定24件 令和4年11月末時点

令和4年11月末時点では、デスクを窓口とした公民連携協定は24件となり、その分野は子育てや健康増進、防災、スポーツ振興、シティプロモーションなど多岐に渡り、それぞれの実施メニューを盛り込んでいます。

この間の課題としましては、コロナ禍で人や企業の活動が停滞するため、予定通りに連携メニューが実践できないことや新たな連携メニューの構築が難しいことがございましたが、コロナ禍においてもできることを模索しながらこの間、健康増進や災害対策など民間企業と連携し、取り組みを進めています。

今後も、地域課題や行政課題の解決のため、積極的に企業や団体にアプローチし、企業や団体との「対話」と「相互理解」を深めながら、「市民」と「企業・団体」と「行政」の3社が「WIN-WIN」となる取り組みを進めていきます。



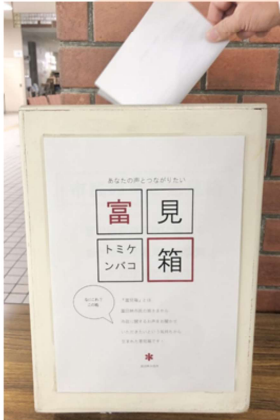
「市民の声の意見箱」、「市長と語ろう」、「市民の声の見える化」

市民の声の意見箱

あなたの声とつながりたい

市長と語ろう

富見箱って知っていますか？



市内在住、在勤、在学の人を含む団体
やグループの方々と語り合う懇談の場

市民の声の見える化

広聴ガイドラインを策定し、市民の皆さま
の声を**原則公表**とし、回答基準や公表基
準を明確化



令和5年1月より、**市長へのお手紙**が
が始まります。

「市民の声の意見箱」

市内施設9箇所に「意見箱」を設置し、広く市民の皆さまからのご意見をお聴かせいただく機会を設けています。設置場所は、市役所1階、金剛連絡所、きらめき創造館、中央図書館、金剛図書館、東公民館、人権文化センター、児童館、保健センターとなっております。市内全部の意見箱を通じていただいたご意見の件数は、令和2年度が75件、令和3年度が62件です。

また、令和4年度より、意見箱の名称を『富見箱(トミケンバコ)』とし、市民の皆さまから親しみやすく、覚えてもらいやすいものに変更しました。市民のみなさまと“つながる”をコンセプトに、広聴について取り組んでいきます。

「市長と語ろう」

市民の皆さまと市長が、市政に関してのご意見やアイデアについて自由に語り合う懇談の場として、年間3回から4回実施しています。市内在住、在勤、在学の人を含む団体やグループが対象です。

「市民の声の見える化」

市民の皆さまからいただいたご意見を本市ウェブサイトで公表しています。また、広聴ガイドラインを新たに制定し、職員間においても、市民の皆さまからいただいたご意見の共有を図っています。



市長と語ろう!~わがまち富田林~とは

市民の皆さんと市長との懇談の場をつくり、市政に関しての建設的な意見や提案、アイデアについて自由に語り合うことで、市民と行政の協働によるまちづくりにつなげることを目的とし、定期開催しております。これまでも様々な分野で活躍されているグループにご参加いただきました。

参加グループの一例

- ・子育てや教育に関するグループ
- ・文化芸術活動に関するグループ
- ・スポーツに関するグループ
- ・健康医療分野に関するグループ



市長室での懇談風景